

### 経腸栄養パス導入の意義と実践（急性期～慢性期病院）

共催：ネスレ日本株式会社 ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー

---

昨今、患者の早期回復や感染予防の観点から、経腸栄養が推奨されていますが、下痢や逆流などの不耐症の発生とそれによる経腸栄養中断といった状況が現場では多く見られます。

この原因の多くは、医療担当者の栄養療法への理解度の違いに起因する不適切な栄養剤や投与方法の選択によるものと考えられます。

これに対する解決手段の一つが『経腸栄養パス』導入です。

医療担当者個々の判断のバラつきや不適切な栄養管理が減り、不耐症発生が減少することにより、早期回復、早期退院、早期リハビリ（ひいては医療費削減やベッド回転率 up や在宅復帰率 up）が実現可能になると謂われおり、導入する病院が増えてきています。

そこで当シンポジウムでは、既に経腸栄養パスを導入している急性期～慢性期病院の先生方に、パス導入によるアウトカムや、導入のポイントをご発表いただきます。

これから、経腸栄養パス導入を検討されている病院や医療担当者の参考にしていただければ幸いです。